

「第5回経営諮問委員会（アドバイザリーボード）」の概要

第5回経営諮問委員会（以下、「アドバイザリーボード」という）の概要につきましては、以下のとおりであります。

当社側から、平成21年3月期第2四半期決算の概要、第一次中期経営計画の進捗状況および地域経済活性化への取り組みについて説明し、その後、委員の皆様方からご意見を頂戴いたしました。

1. 日時

平成20年12月9日（火） 10:30～12:00

2. 場所

紀陽銀行 本店

3. 出席者

【経営諮問委員会委員】 <五十音順、敬称略>

上山 英介 大日本除虫菊株式会社 代表取締役会長
小田 章 国立大学法人和歌山大学 学長
島 正博 株式会社島精機製作所 代表取締役社長

【紀陽ホールディングス出席者】

片山 博臣 取締役社長（紀陽銀行 取締役頭取）
古出 哲彦 専務取締役（紀陽銀行 専務取締役）
瀧川 千秋 常務取締役（紀陽銀行 常務取締役）
米坂 享 常務取締役（紀陽銀行 常務取締役）
阪本 彰央 取締役（紀陽情報システム 副社長）
羽山 喬 監査役（紀陽銀行 監査役）
玉井 享 監査役（紀陽銀行 監査役）

【紀陽銀行出席者】

雑賀 均 常務取締役
泉 清映 取締役
松岡 靖之 取締役
上野 隆司 取締役
森川 保彦 取締役
成田 幸夫 取締役

営業推進本部 ピクシス営業部
部長 田辺 治

【事務局】

紀陽ホールディングス グループ企画部

グループ統括リーダー 堀切 久寿、グループリーダー 金谷 崇史

グループサブリーダー 宮下 洋、グループサブリーダー 橋本 信貴

4. 片山社長挨拶要旨

- ・平成21年3月期第2四半期決算は、誠に残念ながら報告ですが、計画を下回る業績となりました。合併と同時にスタートしました第一次中期経営計画につきましては、本年度上期の途中までは順調に推移しておりましたが、紀陽銀行が保有する有価証券に関して損失を計上したことにより、当初の目標達成が難しい項目も出てきております。計画終期である平成21年3月期は残すところ4ヶ月余りであります。今回の教訓を活かして、次の計画につながるよう、役職員一同気を引き締めて精一杯取り組んで参りたいと考えております。
- ・地域経済の状況につきましては、世界的な景気後退観測が台頭しておりますなか、あまり明るい話題が見受けられませんが、こういう時期だからこそ、地元金融機関として地域活性化に向けた明るい材料づくりに積極的に取り組んでいきたいと考えております。委員の皆さまには当社グループが果たすべき役割等について忌憚のないご意見、ご提言をいただきたく存じます。

5. 弊社からの説明要旨

紀陽ホールディングス・グループ企画部および紀陽銀行・営業推進本部より以下の内容について説明いたしました。

- ①平成21年3月期第2四半期決算概要および第一次中期経営計画の進捗状況について
- ②地域経済活性化の取り組みについて
前回のアドバイザリーボードでのご提言をふまえ、以下のとおり内容を説明
 - (1)文化・スポーツ面の活動
 - ・紀陽文化財団を通じた文化面の活動内容について説明
 - ・和歌山県綱引選手権大会への協賛をはじめとするスポーツ面での活動内容について説明
 - (2)地元中小企業に対する人材育成サポート
 - ・事業承継をテーマとした紀陽銀行の活動内容について説明
 - ・和歌山県と紀陽銀行の互惠プロジェクトから創出された「成長企業育成事業」ならびに「中核人材導入支援」の両事業の内容について説明
 - (3)産官学連携への取り組み
 - ・産官学連携案件の進捗について説明
 - ・地元大学ならびに学校との連携協定等について説明

6. 委員の皆様からのご意見等について

委員の皆様から以下のご意見、ご提言をいただきました。

<経営計画の取り組みについて>

- 平成20年9月期の業績については、世界規模で発生した予期せぬ事象が原因であり、紀陽銀行だけが問題であったというわけではないと考えている。今回の件を今後に活かすことが重要で、より高いレベルのリスク管理体制を構築していただき、同様の環境が再度生じた時にも、同じ失敗を繰り返さないよう期待する。預金・貸出金業務等については堅実な取り組みをされており、業績の立ち直りは早いと考えている。
- リスクマネジメントに関しては、市場予測や企業格付といった金融業界内の視点のみでなく、業界あるいは市場の外部にいる者のマクロ的視点を活かした取り組みを検討すべき時期でないか。今回の有価証券の件は、客観的にみても銀行の判断としては妥当と思われるものであった。それにも関わらず損失が発生する事態が生じたということは、もう一段高い、銀行の枠を超えた視点から見渡したリスクマネジメントが必要になっているということではないか。マクロ経済分析等に踏み込むには、銀行単独でなく産官学が協力する必要もでてくるとは思うが、紀陽銀行にはそのような分析・研究をおこなうシンクタンクの役割を担うことも期待したい。

<回答>

リスクも多様化しているなかで、リスクをコントロールするためには、目で見えるようにリスク量を計量化する取り組みをおこなってきた。ただし、今回のような異常事態を経験した後にはじめて実感したことは、理論的に計量化されているリスクは、あくまで平常時の想定の下でのものであるということである。想定外の事象により、理屈通りにコントロールできない難しさをあらためて感じており、リスクコントロールについてはより高度化を図っていく必要があると考えている。また、格付会社の情報に偏重しすぎて人任せの判断とならぬよう、しっかりとリスク判断をおこなっていく。

<地域経済の活性化について>

- 和歌山県は地元高校生の県内進学率が全国でも低い水準にある。大学・専門学校等の協力も必要となるが、人口減や高齢化への対策と並行して、若者が地元に残るような枠組を構築していけるような取り組みが必要である。地元雇用を創出する取り組みにも期待している。
- ベンチャー企業等の中小企業が成長するような基盤が必要である。現在も紀陽銀行には中小企業向け融資に積極的に取り組んでいただいているが、全国的には金融機関の「貸し渋り」が懸念されているのも事実である。地域経済に貸し渋りの影響が出ないように、地元企業の状況への配慮と資金供給を引き続きお願いしたい。

<回答>

当行の置かれている立場を考えると「貸し渋り」はありえない。当然、個別の判断は必要だが、基本的には前向きなスタンスで融資に取り組んでいる。

- 地域のなかで、仕事に情熱をもてる若者を増やしていくことが必要。公教育と同時に家庭教育や社会人教育への関わり方も重要である。こういう分野に対しても良い影響を与えていただきたい。

<回答>

銀行には毎年数多くの若者が就職する。いわば将来の父母であり、若い行員を教育することは良き家庭人を育てることにつながるという認識をもって取り組んでおり、今後も力を注いでいきたい。

今回のご意見、ご提言を踏まえ、当社としましては、経営管理を一層高度化するための取り組みに注力するとともに、地域における雇用創出をはじめとして、若年層にとっても魅力ある地域社会づくりに貢献するための取り組みについて検討を進めていくことといたしました。

以 上